



簡単を当たり前にする
地上型フートバルブ

時代の要求に応える

地上型フートバルブ



P.3 製品仕様

P.4 地上型フートバルブ5大メリット

P.5 常識を覆すメンテナンス性

P.6 従来の底フートバルブと地上型フートバルブの違い

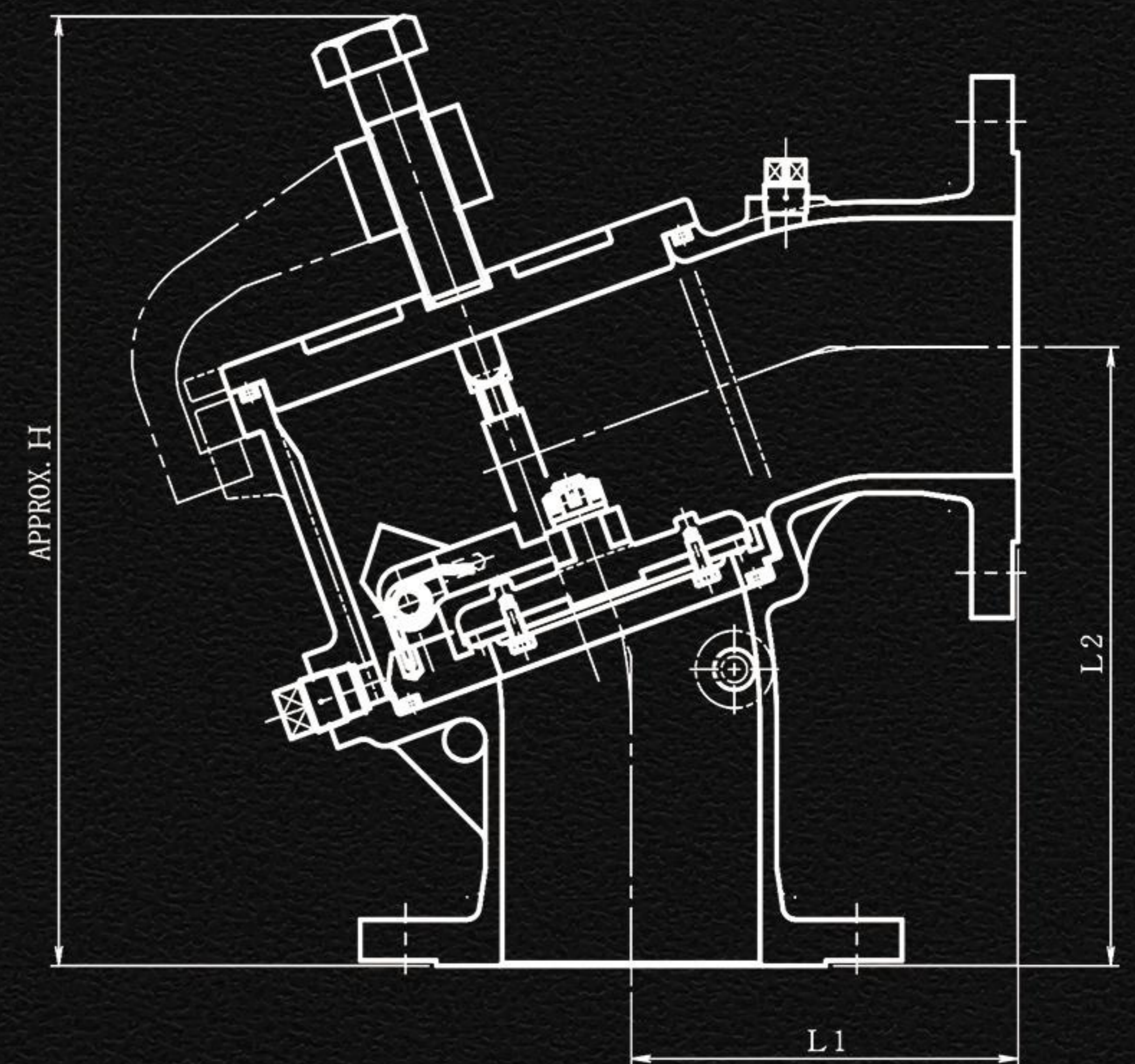
P.7 オプション一覧

地上型フートバルブ アンゲルチャッキ弁

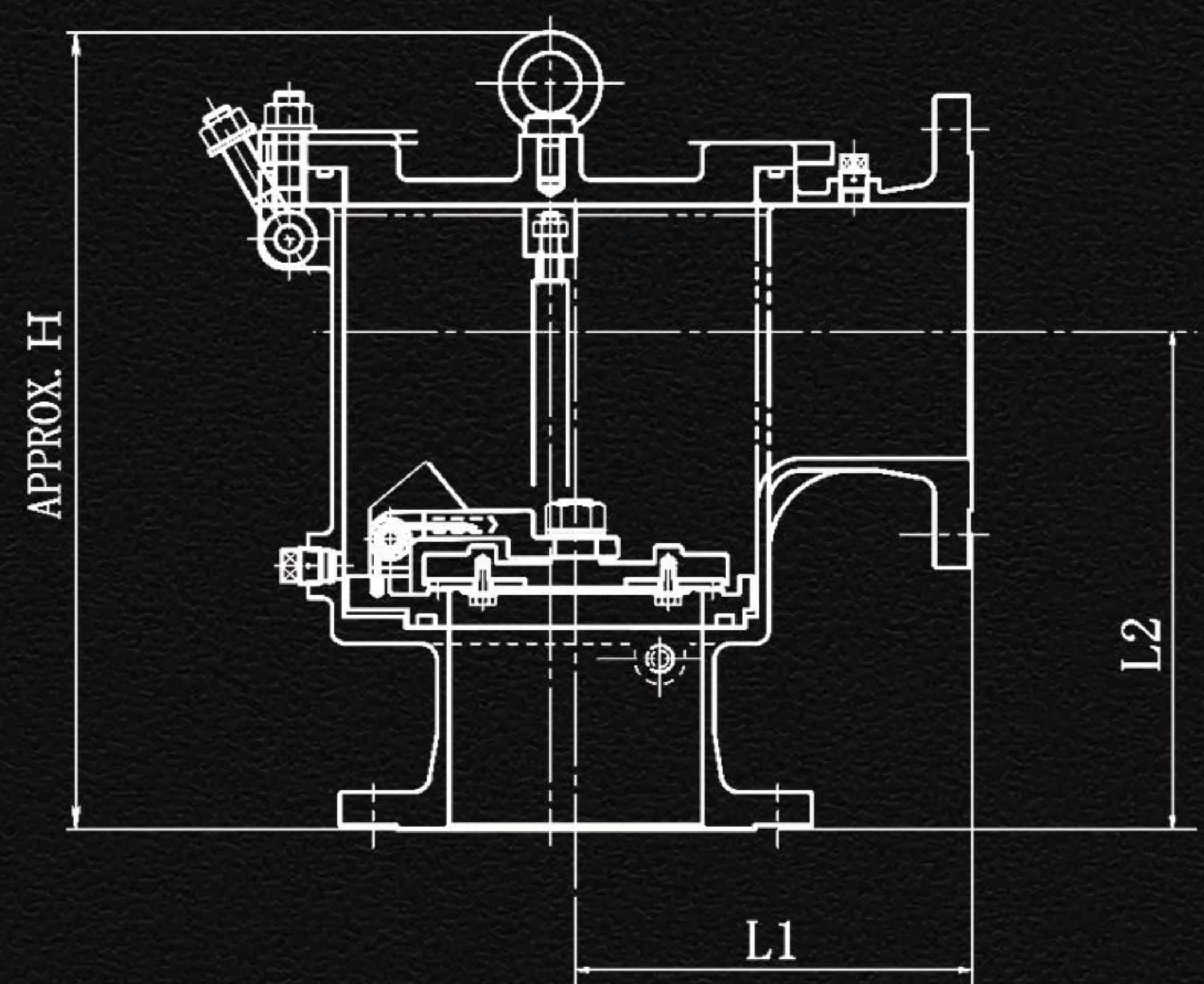
型式 10FAFL-1-13A



40A~100A



125A~250A



基本仕様

仕様流体	液体
最高使用圧力	1.0Mpa
最高使用温度	60°C
接続	JIS10K フランジ

材質

本体	SCS13A
ユニット	SCS13A/SUS304
シートパッキン・Oリング	EPDM

- シートパッキン材質、FPM（パイトンゴム）PTFEもご用意出来ます。
- 流体仕様（流体名、濃度、温度）によってご使用出来ない場合があります。流体仕様をご確認ください。

寸法表

SIZE		L1(mm)	L2(mm)	H(mm)
40A	1 1/2	120	210	295
50A	2	120	210	300
65A	2 1/2	130	230	325
80A	3	140	240	355
100A	4	150	240	370
125A	5	215	280	431
150A	6	235	295	458
200A	8	280	350	541
250A	10	350	380	604

スリーエム工業の地上型フートバルブ5大メリット

① エアー溜まり無し

バルブ本体特殊構造にてポンプメーカーが嫌うエアー溜まりを徹底的に無くしました。

② 低圧力損失を実現

バルブ本体特殊構造のため、従来底フートバルブより低圧損を実現しました。(※表①参照)

③ 安心の1.0Mpa仕様

最高使用圧力は安心の1.0Mpa設計です。
万が一の想定外の圧力にも耐える事ができます。

④ イージーメンテナンス

地上設置と特許取得ユニット構造により、メンテナンスが劇的に簡単になりました。

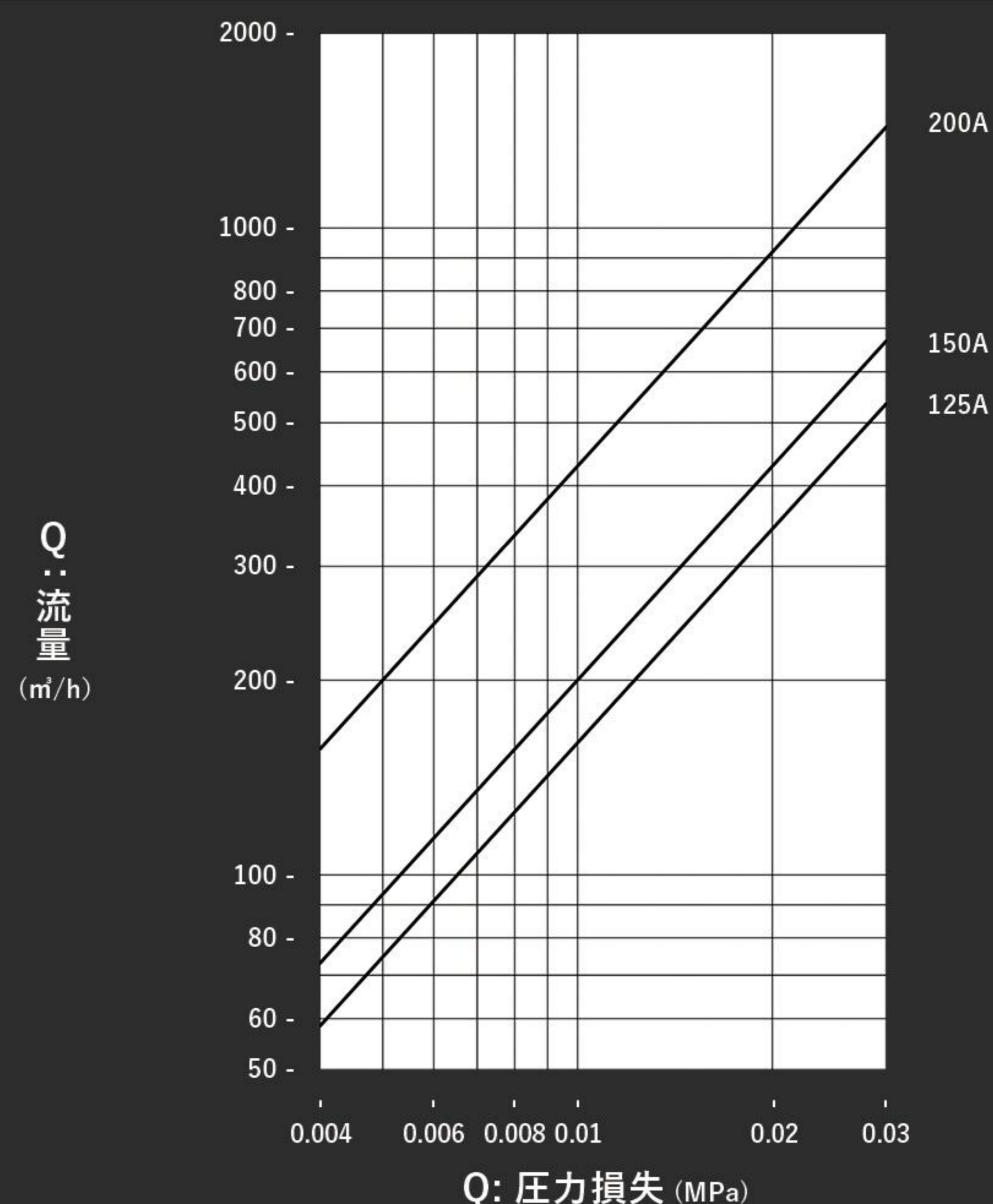
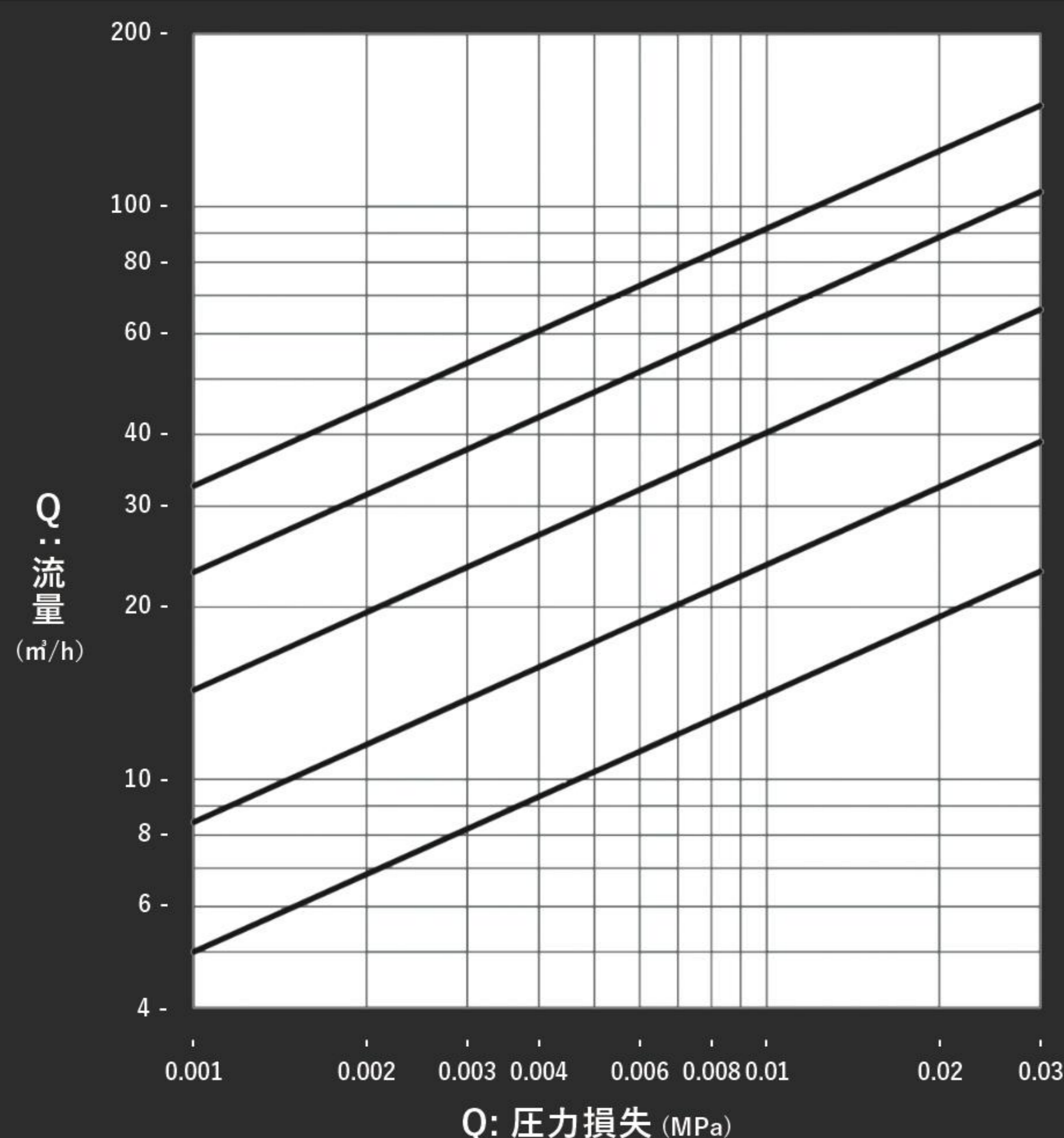
⑤ サイレントシャット構造

流れが止まるとスプリングの力で弁体が閉じる構造になっています。

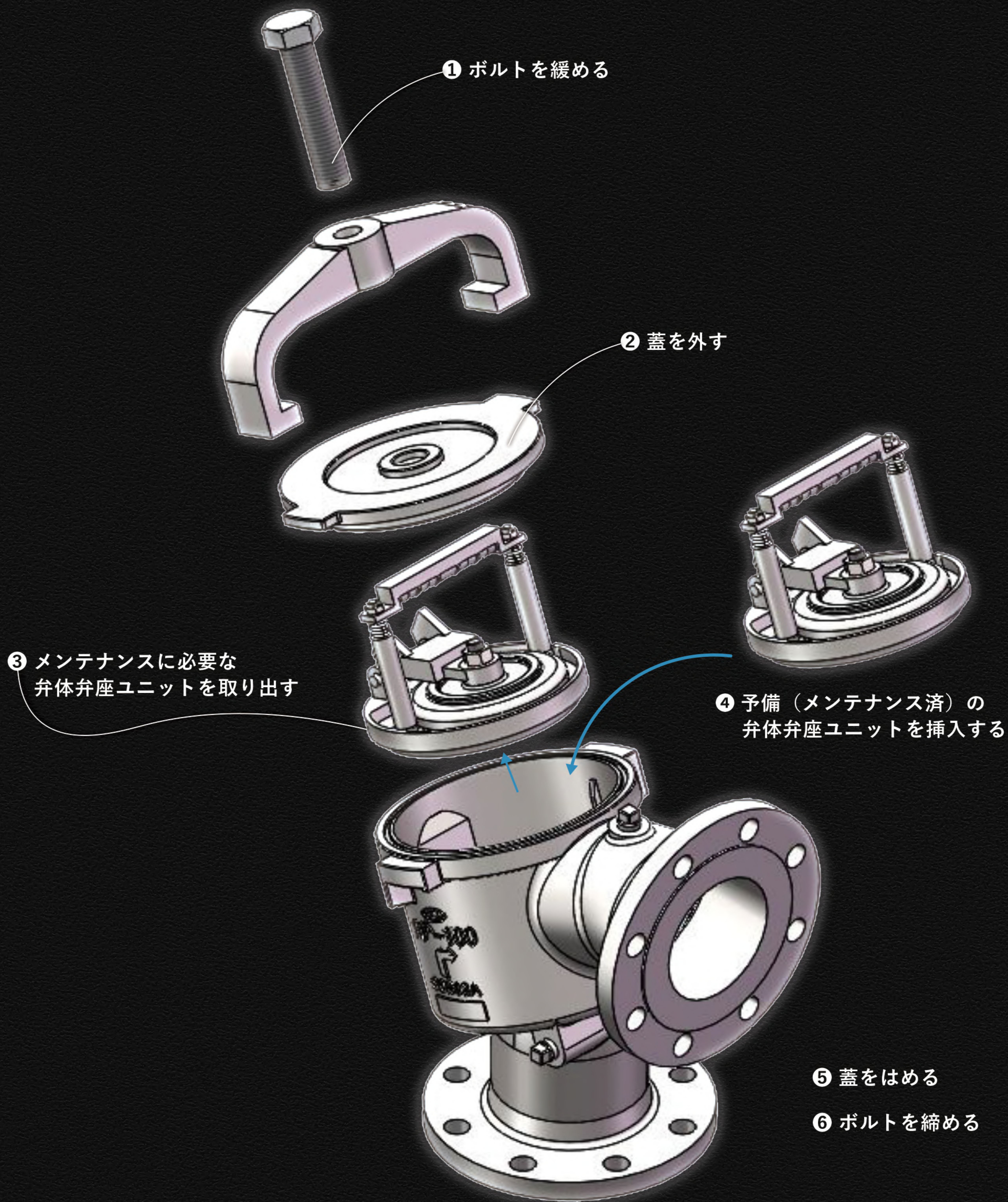
フートバルブメーカーとしての経験、ノウハウが詰まった、いままでの常識を覆す地上型フートバルブの登場です。

(※表①)

地上型フートバルブ圧力損失表



常識を覆すメンテナンス性



スリーエム工業株式会社YouTubeチャンネルにて、
地上型フートバルブメンテナンス方法等の動画を公開中。

<https://www.youtube.com/channel/UChDx7eAKdeWy20Cj9bLZaJQ>



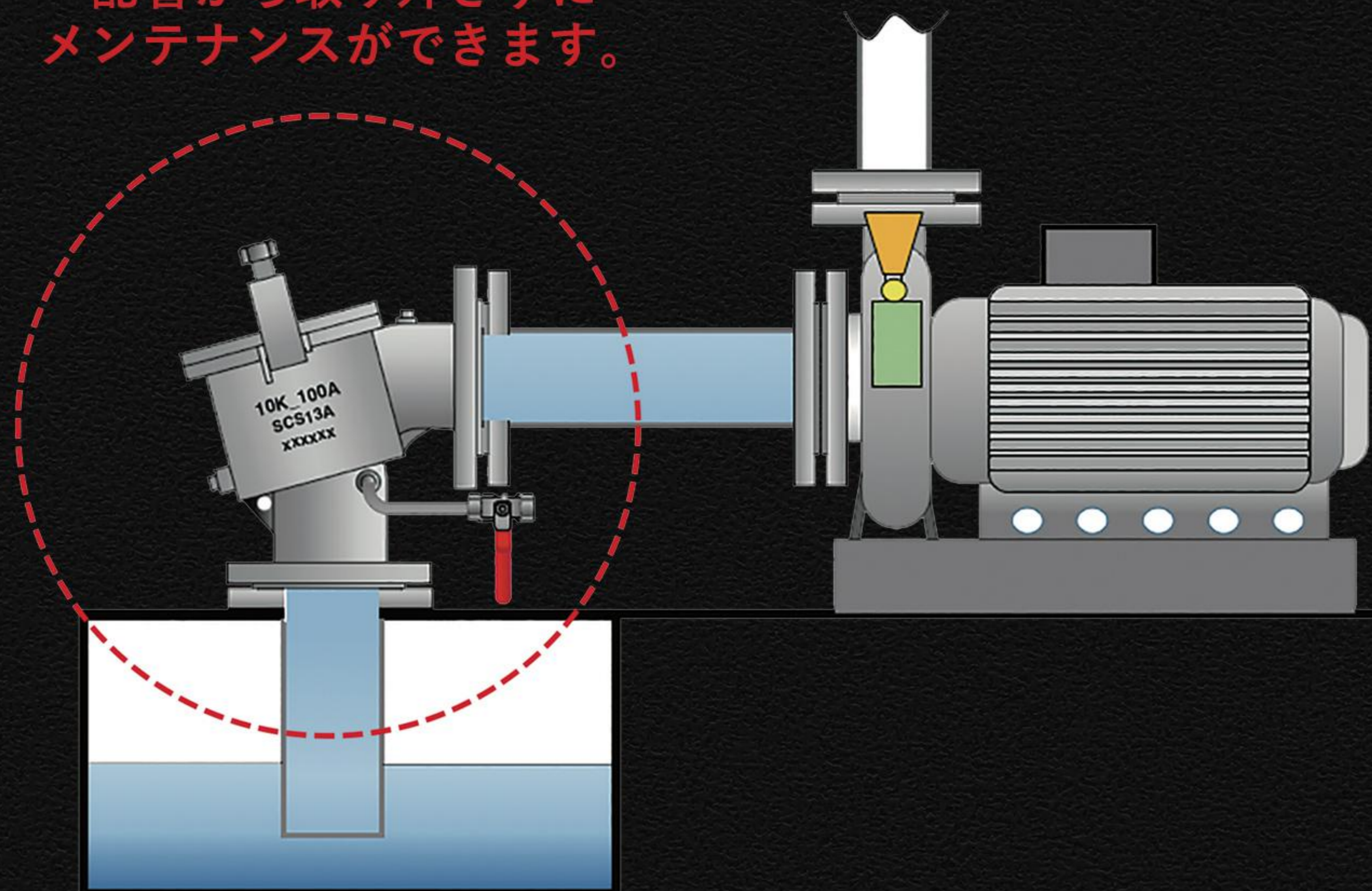
従来の底フートバルブと地上型フートバルブの違い

● 地上型フートバルブ

地上型フートバルブは、その名の通り地上に設置しますので、吸込管の引き上げ作業がありません！これだけでメンテナンス作業の負担は大きく軽減されます。弁体弁座の交換はカートリッジ式を採用。

地上型フートバルブはメンテナンス済みの弁体弁座ユニットを交換するだけで完了します。

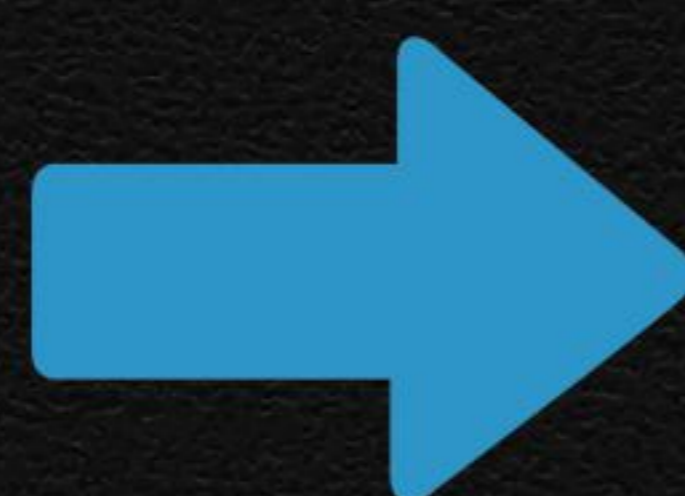
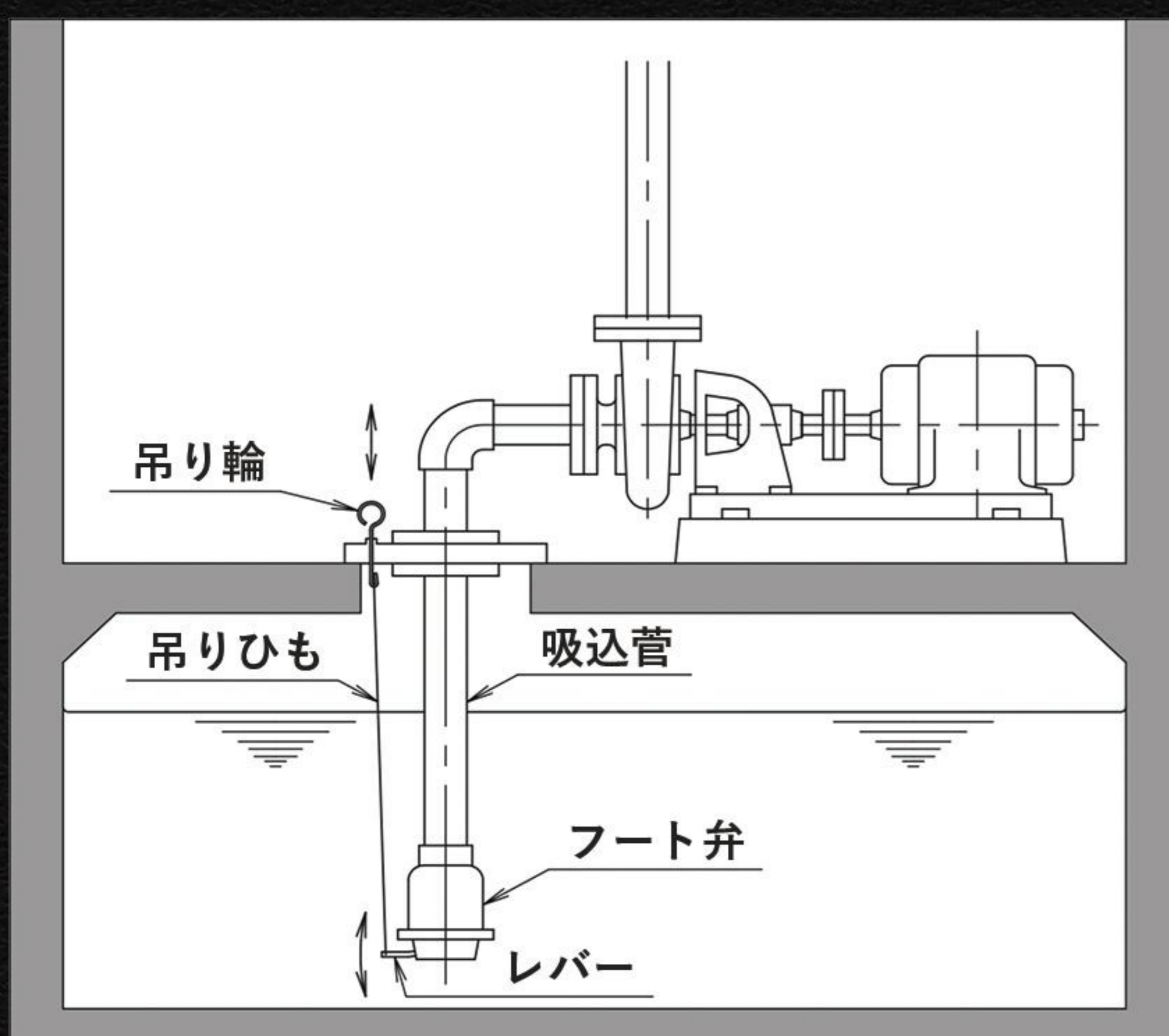
配管から取り外さずに
メンテナンスができます。



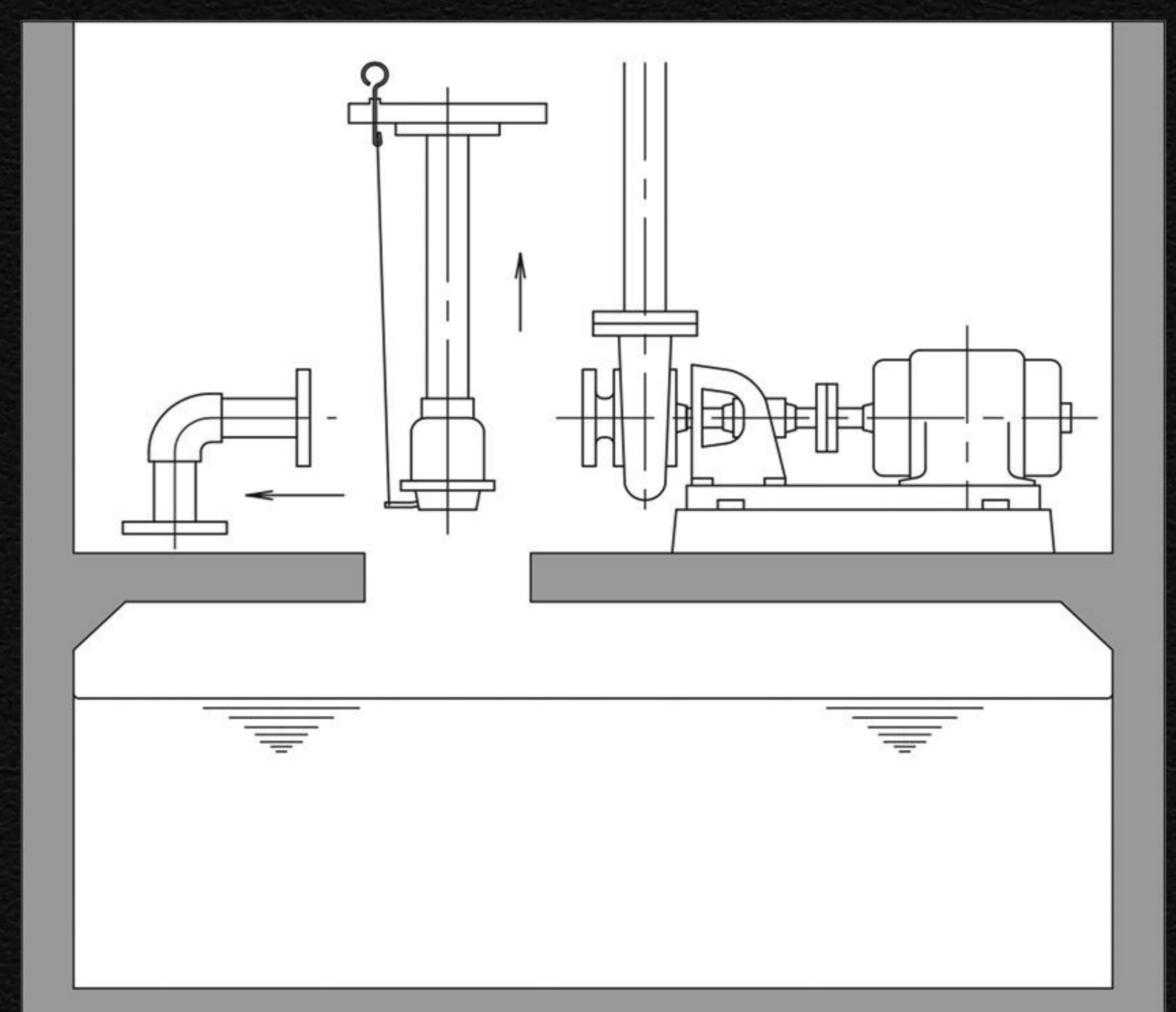
従来の底フートバルブ

従来の底フートバルブは、水中（ピット内）に設置し通常運転時は水没しています。メンテナンス作業時には水没している吸込管、底フートバルブを引き上げてから作業するため、多くの時間と人手を費やします。

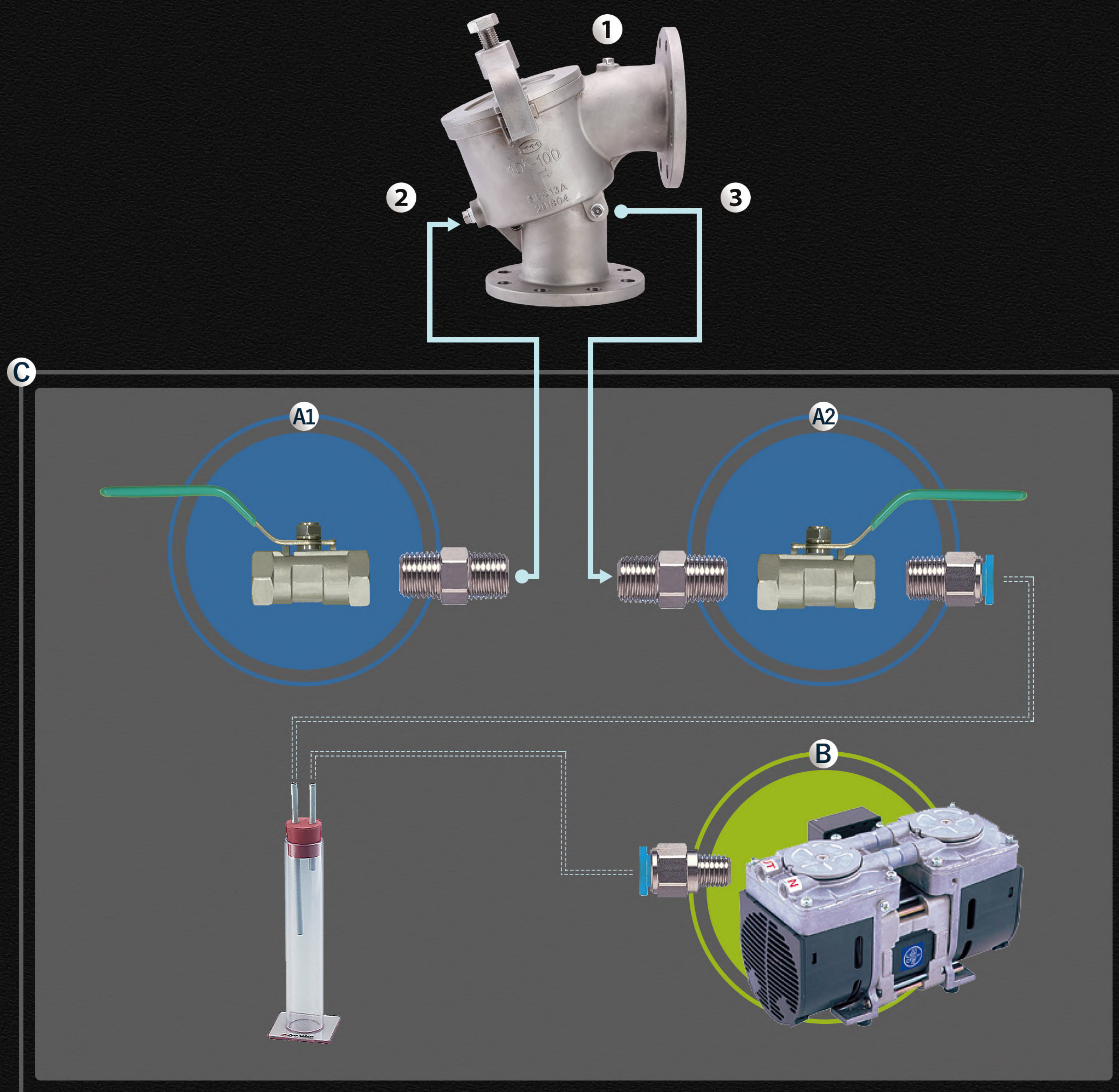
底フートバルブ設置図



吸込管系点検図



オプション一覧



① エアー抜き

呼水時、メンテナンス時のエアー抜きなどに御使用下さい。

② 廃液口

メンテナンス時のドレン抜き又はスリーエム工業式呼水注入口として御使用下さい。

① 継手セット

③ 減圧口

一次測配管への呼水の為、真空ポンプ接続口として御使用下さい。

② 継手セット + ③ 真空ポンプセット

④ フルセット

① + ② + ③ + トラップ + チューブ



スリーエム工業株式会社



本社

〒550-0025 大阪市西区九条南4丁目3番15号
TEL 06-6583-3888 FAX 06-6583-3223

東京営業所

〒103-0004 東京都中央区東日本橋2-28-4 (東日本橋中央ビル3階)
TEL 03-5822-6333 FAX 03-5822-6334

e-mail

mmm@three-mmm.co.jp

Web

<https://www.three-mmm.co.jp>

● この印刷物の記載内容は2022年7月現在のものです。内容を予告なく変更する場合があります。